

枚方淀川探鳥会 2026年1月

2026年(令和8年)1月4日(日) 9:00~12:00
日本野鳥の会大阪支部
前田初雄、甲田正二、西脇淳浩、香月清宏
松井正夫、新名泰博、平 軍二(☎090-6901-1425)

明けましておめでようございます。

今日は、そして本年も良き鳥との出会いを楽しみたいと思っています。



ミサゴ 20251207(平)

I 今月の鳥 ミサゴ

①ミサゴ タカ目ミサゴ科ミサゴ属

♂ 雄54cm 雌64cm 漢字名 鶲

学名 *Pandion haliaetus* 英名 Osprey

チェックリスト(Ⅱ)からわかるように、枚方淀川探鳥会ではタカの仲間でトビについてよく観察されているミサゴ、先月も観察できました。

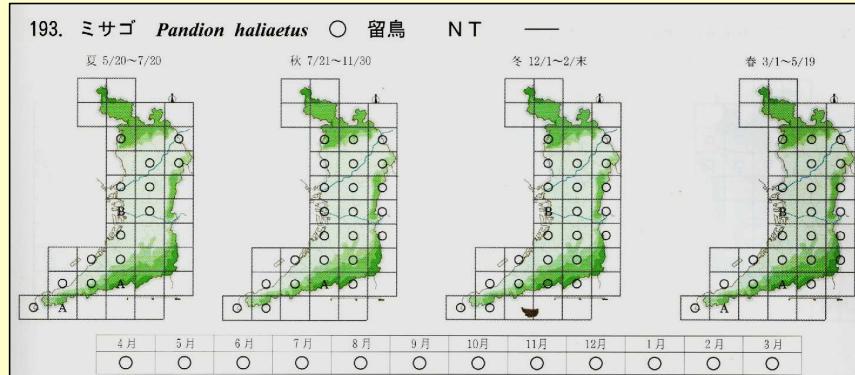
ミサゴは留鳥で餌が魚のため、内陸部では淀川のような大きな河川、大きなため池などでもよく観察されている。

②大阪府のミサゴ→

(大阪府鳥類目録 2016)

上述のように大きな川や池など、大阪府のほぼ全域で観察されている。

大阪府南部の湾岸に近い地域、岬町・阪南町・貝塚市、そして熊取町などに繁殖記録がある。
(詳細P4参照)



ミサゴ 分類:タカ目ミサゴ科 Western Osprey *Pandion haliaetus*

全長:54.5-63.5cm 翼長:448-520mm ふ距離:54-60mm 体重:1331-2219g

環境省レッドリスト: 準絶滅危惧

各年代の分布状況の変化

メッシュ数	A	B	C	1974-1978
1974-1978	14	14	36	
1997-2002	56	20	74	
2016-2021	88	34	130	

調査地数

1997-2002 92

2016-2021 132

1974-1978

1997-2002

2016-2021

← ③ミサゴ 日本での繁殖状況

全国鳥類繁殖分布調査2016～2021年

(鳥類繁殖分布調査会 2021年)

ミサゴは左図のように全国で繁殖状況増えつつある。

同調査会によると、魚食の鳥は、1970年代を境に、それまでの農薬汚染・水質汚染が徐々に減少したこと、回復している。カワウ・ダイサギ・アオサギなど、大型の魚食の鳥同じ傾向がみられるとのことである。

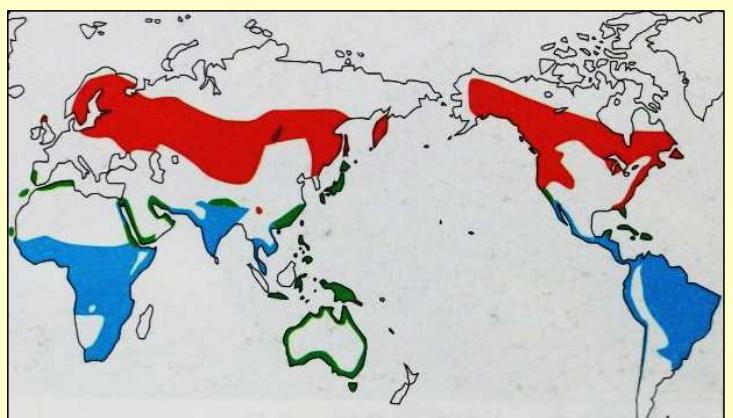
④世界のミサゴ分布図

真木・大西(日本の野鳥590) 2000年平凡社

日本に冬鳥として来ているスズガモの繁殖地が北極圏にあることを初めて意識した。

スズガモの繁殖図を見て、他の鳥の分布図を見直した所、マガ・コハクチョウなどの繁殖地も北極圏でした。

スズガモの越冬地は千島列島～日本列島、そして台湾及び中国南部などの沿岸部でした。



II 探鳥会観察チェックリスト(第8版)

観察回数は、平が担当した2012年1月～先月2024年12月までの13年間での観察回数です。

100回以上は留鳥、50回前後は冬鳥or夏鳥、10回以下は珍鳥？

第8版	科名	鳥名	観察回数	2025				2026				第8版	第8版	科名	鳥名	観察回数	2025				2026				第8版
				1	2	3	12	1	2	3	5			科名	鳥名	観察回数	1	2	3	12	1	2	3	5	
12	カモ	マガモ	1								12	144	シギ	チュウシャクシギ	?									144	
18		ツクシガモ	3								18	163		トウネン	1										163
23		トモエガモ	2	9							23	165		ハマシギ	1										165
24		シマアジ	1								24	183		タシギ	5										183
26		ハシビロガモ	9	2			1				26	188		インシギ	88	1	1	2	2						188
27		オカヨシガモ	52	42	18	8	55				27	190		クサシギ	3										190
28		ヨシガモ	21	5	8	2					28	192		キアシシギ	2										192
29		ヒドリガモ	48	3	9	2					29	198		アオアシシギ	1										198
30		アメリカヒドリ	6								30	213	カモメ	ユリカモメ	22		2								213
32		カルガモ	97	6		15	4				32	221		ウミネコ	3										221
33		マガモ	58			1					33	222		カモメ	3										222
34		オナガガモ	8								34	226		セグロカモメ	20	2	2								226
35		コガモ	62	3	12	15					35	230		コアジサシ	9										233
39		ホシハジロ	46	35	27	4	31				39	270	アビ	シロエリオオハム	1										270
40		アカハジロ	6								40	315		カツツ	144	14	13	23	9						315
41	カモ	メジロガモ	1								41	319		ヘラサギ	1	1	3	1							319
43		キンクロハジロ	47	94	65	24	256				43	320		クロツラヘラサギ	1										320
44		スズガモ	7	8	1	1	2				44	328	サギ	ゴイサギ	10				1						328
56		ミコアイサ	2			1					56	330		ササゴイ	18										330
58		カワアイサ	50	11	5		6				58	332		アマサギ	3										332
59		ウミアイサ	3								59	333		アオサギ	124	3	2	1	7						333
64		キジ	キジ	54	1		2				64	335		ダイサギ	120	2	2		12						335
69		アマツバメ	2								69	337		コサギ	111	3	3	1	9						337
80		ホトトギス	2								80	343	ミサゴ	ミサゴ	75	2	3	2	4						343
82		ツツドリ	2								82	344		ハチクマ	2										344
83		カッコウ	1								83	352		ツミ					1						352
89	ハト	キジバト	12	5	12	10	3				89	353		ハイタカ	36	1		1	4						353
96	クイナ	クイナ	12								96	354		オオタカ	27	1		2							354
100		バン	23								100	355		チュウヒ	2										355
101		オオバン	55	81	93	112	94				101	356		ハイロチュウヒ	1										356
103		ヒクイナ	7								103	359		トビ	102	2	3		2						359
117	カツツ	カツツブリ	51	4	5	5	11				117	363		サンバ	1										363
119		カンムリカツツブリ	64	29	21	4	23				119	366		ノスリ	37		2								
121		ハジロカツツブリ	4								121	371	フクロウ	オオコノハズク	1										371
127	チドリ	タゲリ	1								127	384		カワセミ	106	1	2		3						384
128		ケリ	97								128	389		アリスイ	10										389
134		イカルチドリ	9								134	390		コゲラ	102	3	1								390
135		コアドリ	92								135	394		アカゲラ	6										394
136		シロチドリ	4								136	402	ハヤブサ	チョウゲンボウ	57				1						402
											407	ハヤブサ	31	2	2	1	2							407	

III 先月(12/7)探鳥会報告

スタート地点で関西医大の文字盤にいたハヤブサを見てスタート、裏側(河川敷)へ回って2羽(ペア)で観察した。猛禽類がハヤブサの他、ショウゲンボウ、ミサゴ、ハイタカ、トビ、そして探鳥会初記録のツミと6種も観察できた。淀川本流ではキンクロハジロの大群(カウント数256羽)、ハシビロガモ、オカヨシガモ、ホシハジロ、スズガモ、カワアイサと7種確認したが、ヒドリガモ、マガモ、コガモは出なかった。冬の小鳥はツグミ、ジョウビタキ、シメ、ベニマシコ、アオジは出たが、タヒバリは確認できなかった。

毎年恒例の「淀川寛平マラソン」淀川河川公園(枚方地区)で開催されていたが、コースが例年と違って下流側に設定されていたことから、探鳥会には影響なかった。参加者が39名と多かったが、晴天で風のない探鳥日和となり、ゆっくり鳥を観察することができ、トータル47種の鳥が確認することができた。

第8版	科名	鳥名	観察回数	2025			2026			第8版	科名	鳥名	観察回数	2025			2026			第8版	
				1	2	3	12	1	2					1	2	3	12	1	2		
411	サンショウクイ	サンショウクイ	1							411	550	ヒタキ(続)	キビタキ	16						550	
419	カササギヒタキ	サンコウチョウ	1							419	554		オジロヒタキ	1						554	
425	モズ	モズ	114	4	6	4	12			425	556		ルリビタキ	1						556	
435	カラス	ハシボソガラス	125	23	9	28	57			435	561		ジョウビタキ	60	4	6	6	3		561	
436		ハシブトガラス	118	5	3	3	3			436	564		インヒヨドリ	39			3			564	
440	シジュウカラ	ヒガラ	1							440	568		ノビタキ	13						568	
442		ヤマガラ	7							442	575		スズメ	125	130	150	62	80		575	
447		シジュウカラ	116	4	2	4	4			447	584		セキレイ	42	1	1	1	3		584	
448	ツリスガラ	ツリスガラ	1							448	585		ハクセキレイ	116	21	6	14	14		585	
450	ヒバリ	ヒバリ	88		1					450	586		セグロセキレイ	109	2	1	1	3		586	
456	ヒヨドリ	ヒヨドリ	126	320	270	300	215			456	595		タヒバリ	35			20			595	
458	ツバメ	ショウドウツバメ	6							458	597		アトリ	29	12	30	14			597	
461		ツバメ	64							461	598		シメ	42				5		598	
462		イワツバメ	54	30	50	30	60			462	600		イカル	17	5		10			600	
463		コシアカツバメ	23							463	606		ベニマシコ	44	3			3		606	
464	ウグイス	ウグイス	119	4	2	7	2			464	608		カワラヒワ	114	17	18	43	7		608	
467	エナガ	エナガ	93	6	4	1	1			467	613		マヒワ	6						613	
476	ムシクイ	センダイムシクイ	7							476	618		ホオジロ	119	4	6	10	4		618	
479		エゾクシクイ	1							479	622		ホオアカ	6						622	
481		メボソムシクイ	5							481	625		カシラダカ	23						625	
482		オオムシクイ	5							482	626		ミヤマホオジロ	1						626	
484	ヨシキリ	オオヨシキリ	33							484	633		アオジ	70	6	12	13	9		633	
485		コヨシキリ								485	637		オオジュリン	17						637	
497	セッカ	セッカ	32							497	9		キジ	コジュケイ	13						9
501	メジロ	メジロ	103	30	4	3	4			501	11		ハト	カワラバト(オオバト)	121	100	60	51			11
502	キクイタダキ	キクイタダキ	8							502	30		ムクドリ	ハッカチヨウ	1						30
507	ムクドリ	ムクドリ	113	35	107	150	55			507			カツコウSP	5							
509		コムクドリ	5							509			アイガモ	3							
512		ホシムクドリ	2							512			メボソムシクイSP	7							
525	ツグミ	マミチャジナイ	1							525			ヒタキSP	3							
526		シロハラ	54	5	7	3				526			種数合計(自動計算)		53	52	47	47			
527		アカハラ	2							527			個体数合計(自動計算)		1147	1108	1047	1144			
531		ツグミ	80	1	33	14	4			531			探鳥会参加者数		26	24	30	39			
532		ハチジョウツグミ								532			13年間観察回数	1~2回							
533	ヒタキ	エゾビタキ	9							533			100回以上								
534		サメビタキ	2							534			樹林伐採影響でいなくなる種								
537		コサメビタキ	18							537			2012年1月～2024年12月の13年間 ①観察回数の少ない種(1~2回) ②観察回数多い種(100回以上) ③樹林伐採の影響を受けると思われる種								
539		オオルリ	4							539											
543		ノゴマ	1							543											



IV 次回は2月4日(日)
午前9時 ラポールひらかた前

冬鳥が勢ぞろいして迎えてくれると思います。。
今月と同じように、大阪支部HPからホームズ様式からお申し込みください

V 希少鳥類の生息調査報告⑯ 2013年度

大阪希少鳥類研究グループ

大阪府内のミサゴ繁殖について報告を探していた所、故小海途銀次郎氏が2013年度報告にミサゴの過去の調査結果が記載されていましたので、ご参考までに添付します。

☆ミサゴ *Pandion haliaetus*

本年、岬町で希少鳥類生息調査を行った結果、思わぬ収穫があった。三ヶ所でミサゴの繁殖地が判明したのである。岬町で赤松頂きに1巣、鉄塔上に1巣の二ヶ所と、阪南市で鉄塔上の巣を一ヶ所である。現在、貝塚市で1番（鉄塔）が繁殖をしており、大阪府では四ヶ所でミサゴの繁殖地が判明した事になる。

大阪府で初めてミサゴの繁殖が確認されたのは 1959 (S34) 年で堺市南区にある大正池の横に生えた赤松に巣が作られており 2 羽の雛がいた。その後 1964 年まで同地で生息を続けていたが姿を消し、大阪府全域でも夏季に目撃される事は稀になった。2000~2001 年のオオタカの生息調査の際、岬町の複数ヶ所で夏季にもミサゴが目撃された事から繁殖の可能性があると考え巣の発見に努めたが、その時は果たせなかった。

2008 (H21) 7月、(株)環境総合テクノスを通じて関西電力から連絡があり、4/7 に高圧線の保全点検中に熊取町の鉄塔にミサゴが営巣しているのに気づいた。2/6 に点検した時には巣はなかったとの事、初めての営巣らしい。そして 4/16 に抱卵を観察し、7/24 の、観察中に雛が 1 羽巣立ったというものである。大阪府で最後に雛が確認されてから、54 年ぶりの繁殖復活である。ただ保全の問題から繁殖が終わったあと鉄塔から巣を落とすのだが、翌年になるとまた巣を作る。よほどその場所が気に入っているのか鉄塔を変えながらもその付近から繁殖地を変えないでいる。そして本年新たに三ヶ所で営巣が確認された。更に 1 ~ 2 ヶ所の可能性が感じられるが大阪府南部を中心にミサゴの繁殖は定着しつつある。

ミサゴの営巣場所に送電線の鉄塔が好んで使われることは他県でも観察されている。陸上でのミサゴの本来の営巣場所は赤松の頂であったが 1980 年代に始まったマツノザイセンチュウによる松枯れ等で営巣に適した赤松の大木が少なくなった。それに代わるものとして鉄塔が選ばれたものと考えられる。

大阪府におけるミサゴの繁殖観察史

つがい名	観察年	状況	営巣地
大正池番	1959(S34).05.15	2 雛在巣・約 15 日齢・赤松の頂きに造巣	堺市・大正池付近
"	1963(S38).04.20	2 卵抱卵中	" "
"	1966(S41).03.06	巣作り中	" "

…この後、20 年間ほど大阪府でミサゴは減少傾向が続き、1990 年ぐらいから再び徐々に各地で姿が目撃されるようになる。…

貝塚 番	2008(H20).04.16	抱卵中	・送電線の鉄塔の頂き	熊取町・
・・・ 2009~2010 年は確認調査を行わなかったが情報によると鉄塔を変え繁殖を続けていたらしい。・・・				
"	2011(H23).06.21	2 雛在巣	・ "	貝塚市・水間付近
"	2012(H24).06.?	1 雛在巣	・ "	" ・ "
"	2013(H25).07.02	2 雛在巣	・ "	" ・ "
鳥取 番	2013(H25).03.30	巣作り中 (4/14 抱卵中)	・ "	阪南市・桑畠付近
逢帰り番	2013(H25).04.28	抱卵中 (親鳥在巣)	・赤松の頂きに造巣	岬町・孝子付近
大曲 番	2013(H25).05.04	抱卵中 (親鳥在巣)	・送電線の鉄塔頂き	岬町・孝子付近